



いしかわ労福協

第684号 2025年7月25日

発行所 石川県労働者福祉協議会
発行責任者 福田 佳央
編集人 奥村 賢志
〒920-0024 金沢市西念3丁目3番5号
電話 (076) 231-1737
FAX (076) 231-1731
<https://www.ishikawa-rofukukyo.jp>
info@ishikawa-rofukukyo.jp
毎月1回 25日発行

第64回石川労福協通常総会

「すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、 連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくろう」



石川労福協は6月24日(火)、フレンドパーク石川にて第64回通常総会を開催した。冒頭、西田満明副理事長より「令和6年能登半島地震・奥能登豪雨」により亡くなられた方々への哀悼の意が表され、参会者全員で黙とうを捧げた。その後、高村伸幸代議員が議長に選出され、議事に入った。次に、福田佳央理事長から、「能登半島地震発生から1年半が経過し、公費による家屋解体が進む一方で、空き地が増え寂しさを覚える景観が広がる中、各自治体では震災公営住宅の整備計画が始まり、復旧から復興へと着実な歩みが見られる。石川労福協グループでは、連合石川を中心に全国の仲間たちと共に延べ4,000人のボランティアが復旧活動に参加した。

解散を予定していた「石川労信協」も「ろうふく支援財団」として再構築し、今後も労福協グループの一員として事業を継続することとなった。新たな事業として奨学金制度を創設して、奥能登の高校生640人を対象に、最長3年間・総額1億1千万円の支給を予定している。

「石川生協連」は炊き出しや仮設住宅への調味料セット配布を行うなど、生活面への支援も続けている。

さらに、今年8月には液状化被害の大きかった内灘町西荒屋小学校の親子17組を関西万博へ招待する取り組みも進めている。石川労福協では、2023年より持続可能な福祉事業体制の

再構築に取り組んでおり、各地域・ライフサポートセンターは新たな運営体制のもとでスタートした。

今後の事業展開においては、以下の2点が特に重要である。フードバンク事業は高く評価されているが、子育て支援のさらなる充実が求められている。金沢市での登録者38名・年間利用者約100名の子育て支援ネットワークは、社会の変化に伴い今後さらなる支援が必要とされている。

事業継続の観点からは、次世代リーダーの発掘を急務とし、具体的な取り組みを進めていく方針である。「福祉はひとつ」を合言葉に、今後とも皆さまとの結集とご協力をお願いする」との挨拶があった。続いて行われた議案審議では、第1号議案から第5号議案はすべて満場一致で承認され、2025年度の活動方針として、4つの柱を軸に活動を継続しつつ、有識者の意見を取り入れた運動の活性化を図っていく。

総会終了後、第2回理事会が開催され、以下の役員が互選された。

- ・理事長：福田佳央
- ・副理事長：西田満明、黒谷治夫
- ・専務理事：徳本喜彰



第24回北陸労働金庫通常総会



挨拶される辻政光理事長

北陸労働金庫第24回通常総会が、2025年6月25日(水)、石川県立音楽堂で開催された。

冒頭、辻政光理事長が以下のように挨拶した。能登半島地震の復興応援定期預金「結1」「結2」の結果は、北陸3県の目標50億円に対し、58億円を結集することができた。改めて、ご協力いただいた皆様にお礼を申し上げます。被災地の復興については、ご存じの通り今も道半ばの状況である。そこで、当金庫としては「結1」「結2」による3年間の寄付に加えて、2025年度も引き続き、支えあい・助け合いの精神の下で、新たに今月6月2日から復興応援定期預金「結3」を発売しており、ろうきん運動を通じた社会貢献活動に取り組んでいく。

さて、2024年度は、福祉金融機関としての使命と役割を発揮し、会員・推進機構と協働で労働者自主福祉運動の承継と強化を行い、マネー教育やろうきん運動の必要性、さらに商品やサービスの利便性に訴求し取引拡大を図った。また、生活応援運動の中心として取り組んだ「ローン借換運動」では、北陸3県で1,017名の方の借換えがあり、総額で67億94百万円を融資させていただいた。その結果、可処分所得向上額は1,017名のトータルで3億90百万円、一人当たりの平均で約38万円となり、多くの組合員から喜びの声を聞くことができた。

2024年度の決算の特徴として、第8期中計の2年目である2024年度は増収・減益となったが、事業計画でお約束していた利益目標の7億円に対し、9億13百万円となり目標を達成することができた。預金については、預金残高60億円増加目標において、「北陸ろうきん」が誕生して初めて期首割れとなったが、融資残

高の増加額は総融資で194億68百万円の増加となり、残高増加計画を上回る結果となった。融資新規実行金額では、無担保・有担保融資ともに計画を上回り、全体で662億31百万円の新規実行することができた。

次に、第1の課題は2025年度の計数計画を確実に達成し、金庫の足元を固める事にあるが、同時に、2030年から5年間に及ぶ、システム更改に係る負担金が大きく増加するという状況下で、負担金に耐えうる経営基盤を構築していくために、改革改善を進めていかなければならない。加えて会員の皆様からのニーズに十分応えることが出来る金庫に成長しなければならない。第2の課題は、預金の結集運動の通年展開、若年層への取り込み活動を展開し、2025年度の営業推進の重要課題である「預金の増加(ニューマネーの獲得)」、「融資の伸長」、「役務収益の増強」、中でも「預金の増加(ニューマネーの獲得)」は最大の推進課題となる。第3の課題は、経費削減への取組み強化である。金庫経営を今後も盤石なものにするため、更なる業務の集中化による事務リスクの抑制と効果的な人員配置の実施を目指していく。

さて、2022年2月24日に始まったロシアのウクライナ軍事侵攻による資源価格の高騰、慢性的な食料や物資の供給不足も一つの要因として物価上昇に苦しんでいる。また、米国の経済政策の転換により、国際情勢の先行きが読めない不安定な時代へと突入した。そのような情勢の中、勤労者世帯の可処分所得の減少が止まらない。このような状況を打開するため、金庫では「生活設計・生活応援・生活改善」を3本の柱として「生活応援運動」を積極的に展開し、北陸労働金庫は、すべての働く人のために安定した金融サービスを提供していく。そして、労金理念、労金らしさを大切にしながら、引き続き、生活応援・可処分所得向上運動を積極的に展開するとともに、ライフステージに合わせた資産形成や生涯取引の推進を図っていく。

議案審議では、「2025年度事業計画」など全議案が承認され、成功裡に閉会した。

ろうふく支援財団（結まーる）評議員会



挨拶する渡邊雅人理事長

「ろうふく支援財団いしかわ」は、2025年6月20日（金）に『第74回定時評議員会』を開催した。冒頭、渡邊雅人理事長が挨拶にたち、日本労働者信用基金協会への事業譲渡につき、円滑に手続きを完了した旨報告した。併せて、新

たな事業として、「令和6年能登半島地震」で被災した高校生638名に対して奨学金給付事業を実施してきたことや、フードバンク事業支援に取り組んできたことを述べた。

来賓として、福田佳央石川労福協理事長・連合石川会長ならびに西田満明北陸労働金庫副理事長が祝辞を賜り、続いて、石川県労働企画課の上野祥士朗参事兼課長補佐より馳浩石川県知事からのメッセージが披露された。

議案審議では、役員改選を含む全ての議案が承認され、全会一致で新しい事業に取り組んでいくことが確認された。

これまでとこれからの行事予定

開催日	曜日	行 事	会 場
6月25日	（水）	北陸労働金庫総会	石川県音楽堂
26日	（木）	さわやかU通常総会	フレンドパーク石川
26日	（木）	夏の勤美展 写真（金沢展） ～ 29日	県庁19階展望ロビー
7月3日	（木）	夏の勤美術 絵画・陶芸・書道部門 ～ 6日	しいのき迎賓館
10日	（木）	夏の勤美展 写真（加賀展） ～ 13日	加賀市美術館
17日	（木）	夏の勤美展 写真（能登展） ～ 21日	コンセルのと
26日	（土）	セカンドライフセミナー 七尾会場	七尾鹿島労働福祉会館
26日	（土）	食とみどり、水を守るNW 地引網体験	高松北部海水浴場
30日	（水）	こくみん共済coop組合員代表者会議	女性センター
8月1日	（金）	北陸労金・こくみん共済coop感謝祭 ～ 10/31	のとじま水族館
2日	（土）	無料セミナー	フレンドパーク石川
5日	（火）	食とみどり水を守るNW幹事会	連合石川
9日	（土）	セカンドライフセミナー 金沢会場	フレンドパーク石川
23日	（土）	セカンドライフセミナー 小松会場	小松市民センター

第2回石川県勤労者「夏の美術展」主な入賞作品



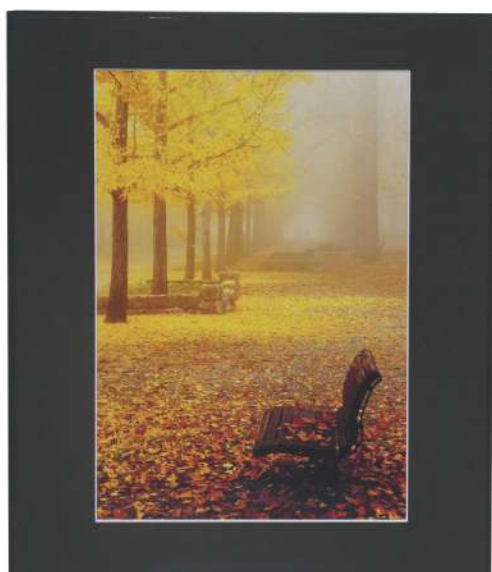
〔日本画部門〕
勤文協会長賞 「風薫る」
川端 瑞恵（金沢市）



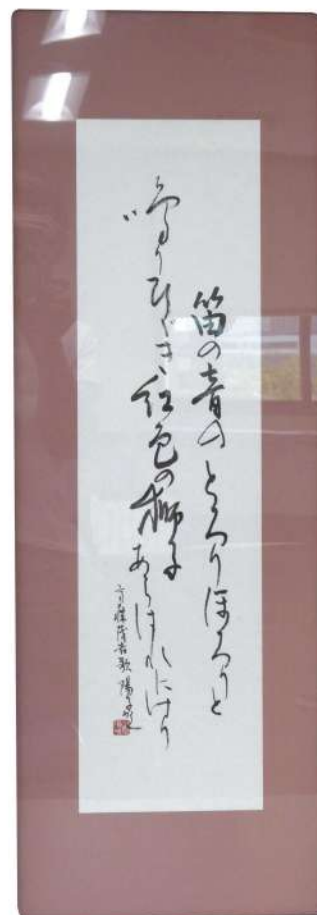
〔洋画部門〕
勤文協会長賞 「冬の朝」
中田 正義（金沢市）



〔陶芸部門〕
勤文協会長賞 「福願い (7 Lucky Gods)」
堀 敏明（金沢市）



〔写真部門〕
勤文協会長賞 「静寂」
山元 透（金沢市）



〔書道部門〕
勤文協会長賞 「斎藤茂吉の歌」
小倉 陽子（金沢市）